



作文・小論文 コンクール を 実施

今年度も、中学生・高校生・教員等を対象とする
作文・小論文コンクールを実施しました。
その審査結果についてご紹介します。



金融広報中央委員会では、中学生や高校生に金融・経済への関心を高めてもらい、また教員の方々の間で金融教育のあり方に関する議論を深めていただくことを目的として、毎年、作文・小論文コンクールを実施しています。今年度の応募状況をみると、中学生からは昨年度を140編上回る応募がありましたが高生からの応募は昨年度を下回りました。これらの作品に対し教育関係・金融関係の専門家の方々による厳正な審査をいただき、入賞作品を決定しました。

おかねの作文コンクール(中学生)
今年度43回目を迎えた「おかねの作文」

コンクールには、「いま、地域を元気にしている会社や商店について考える」、「私のルール・わが家の約束事」、「将来の夢の実現とおかねの関わり」など5つのテーマに沿って、全国の中学生から作品が寄せられ、応募総数は4662編となりました。

家庭内外での体験や経験を通じて、お金や働くこと、地元の経済などについて感じたことや考えたことを述べた作品が多数寄せられました。入賞作品には、親子の間で設けられたルールと工夫や、働くことの対価として得たお金の価値について述べた作品、商店街の機能や、家計の状況に思いを馳せて自分の夢をどのよ

うに実現するかを思索した作品が選ばれました。

**「金融と経済の明日」
小論文コンクール(高校生)**

「金融と経済の明日」第8回高校生小論文コンクールには、「消費者としてのルール」、「超高齢社会におけるこれらの年金・保険」、「日本経済を活性化する将来有望な産業とは」など6つのテーマについて、全国の高校生・高等専門学校生から、1188編の応募がありました。

今年もニュースや自らの体験をきっかけに問題意識を持ち、課題や改善案を

第43回「おかねの作文」コンクール(敬称略)

特選

「私のルール・わが家の約束事」(金融担当大臣賞)
和歌山県 和歌山県立桐蔭中学校1年 平井 未来

「お金を「もらう」ということ」(文部科学大臣賞)
京都府 京都府立洛北高等学校附属中学校3年 市川 葵

「カナダで考えたお金のこと」(日本銀行総裁賞)
千葉県 市川中学校3年 石村 瑞季

「街の笑顔と未来を売る商店街」(日本PTA全国協議会会長賞)
鹿児島県 鹿児島県立鹿児島玉龍中学校2年 木田 夕菜

「夢を実現するために」(金融広報中央委員会会長賞)
徳島県 徳島市立南都中学校2年 林 正基

秀作

「お金に込められた愛情」福岡県 明治学園中学校2年 渡邊 倫子

「お金はこわいものか」愛知県 一宮市立尾西第二中学校3年 飛田 野とか

「お金が増えてくれたこと」滋賀県 守山市立守山北中学校3年 朝尾 朱貴

「「見えないお金」の重み」京都府 京都府立洛北高等学校附属中学校3年 小松 万希子

「新しいお金の使い方」大阪府 聖母女学院中学校3年 國枝 美希

金融・経済の明日「第8回高校生小論文コンクール(敬称略)

特選

「これからの消費者を育てるために」(金融担当大臣賞)
東京都 中央大学高等学校3年 安永 望美

「世界に誇る『時間の正確さ』を産業化へ」(文部科学大臣賞)
東京都 桜蔭高等学校1年 濱中 みなみ

「今、日本の観光産業について考える」(日本銀行総裁賞)
福島県 福島県立福島高等学校1年 鈴木 悠平

「命の値段」(全国公民科・社会科教育研究会会長賞)
群馬県 群馬県立前橋高等学校2年 大澤 阿紋

「超高齢社会の中で年齢という壁を壊す」(金融広報中央委員会会長賞)
東京都 学習院女子高等科2年 津田 沙也香

秀作

「大切なきっかけ」福島県 福島県立福島高等学校1年 阿部 優花

「国家目標「最先端国家」を目指せ」福島県 福島県立福島高等学校1年 芳賀 泰平

「日本の人口変動とその対策」東京都 学習院女子高等科2年 荒木 萌

「年金と自助努力」東京都 学習院女子高等科2年 紺野 彩希

「企業の農業誘致から思う」大分県 大分県立東明高等学校2年 上田 歩

特賞

「マネー・コンピテンシーの育成を目指した単元開発
ー「コミュニケーション・メディア」としての貨幣から「つなかり」をみつめる活動を通してー」
大阪府 豊中市立刀根山小学校 谷本 千保

優秀賞

「金融教育ができる教員を養成しようー北海道教育大学と北洋銀行のチャレンジャー」
北海道 北海道教育大学・北洋銀行金融教育プロジェクト

研究統括 北海道教育大学教育学部教授 鎌田 浩子

北海道教育大学教育学部准教授 川邊 淳子

北海道教育大学教育学部講師 濱地 秀行

(株)北海道二十一世紀総合研究所調査部研究員 小林 あい

北海道登別明日中等教育学校 秋山 玲奈

札幌市立山鼻中学校 太田 和幸

釧路市立幣舞中学校 大西 康史

北海道教育大学附属旭川中学校 世戸 聡子

標茶町立虹別小学校 野口 泰秀

奨励賞

「仮想通貨体験授業の有効性と問題点ー行動経済学的な視点からー」
東京都 上智大学経済学部教授 川西 諭

「夢を描き、その実現に向けて努力する子どもの育成
ー人やもの、お金を大切にすることや態度を育てる金銭教育を通してー」
秋田県 由利本荘市立上川大内小学校 土田 静子

「仕事をする、お金を稼ぐー「作業」という授業に思うー」
神奈川県 神奈川県立平塚養護学校 中山 律子

「「たとえ話」や「疑問?」から始める金融・経済教育
ー仕組みや働きを骨太に理解し、概念的枠組みから金融・経済を捉える授業ー」
神奈川県 横浜市立潮田中学校 丸丸 剛

「自分たちで仕入れて販売しましよ!」
~小学6年生(18名)による仮想会社「足和田コーポレーション」経営~
山梨県 富士河口湖町立西浜小学校 小林 広美

「子どもの心に残る「金銭教育」をめざして
~「社会見学プラン作り」と「映画製作プロジェクト」の取り組みを通して~」
大分県 佐伯市立上入津小学校 齋藤 貴雅

金融教育を考える「第7回小論文コンクール(敬称略)

考え、整理した作品が多数寄せられました。その中で、電子マネーの普及に伴うお金の教育の重要性を指摘した作品や、日本の時間の正確さや歴史という文化遺産を活かした産業振興を唱えた作品、医療や年金という現代社会が抱える困難な課題に鋭い視点を持って自分なりの改善案を論じた作品などが入賞作品に選ばれました。

「金融教育を考える」
小論文コンクール(教員・研究者等)
教員や教育関係の研究者等を対象と

する「金融教育を考える」第7回小論文コンクールには、金融教育を推進するための提言、授業や学校行事での実践の報告やこれに基づく考察を中心に、25編の応募をいただきました。

特賞には、お金を「わたし」と他者や社会を結び付ける「コミュニケーション・メディア(媒介物)」と捉え、お金に関わるための総合的な力を育成する授業を考案し、体系的に整理した作品が選ばれました。優秀賞には、大学と銀行との共同研究で教員を目指す学生向けに「金融

教育」の講座を行った実施報告や、金融取引の体験がない学生に、仮想通貨引を通じてそのしくみや難しさを実感させた授業の報告が選ばれました。

各コンクールの入賞作品は、知るぼろのホームページ(<http://www.shiruboro.jp/>)でご覧になれます。ぜひご参照ください。

なお、これらのコンクールは、平成23年度にも実施(6月頃募集開始)する予定です。多数のご応募をお待ちしています。